

---

# 神のおしおきゲーム

漣香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神のおしおきゲーム

### 【Nコード】

N9558Z

### 【作者名】

澪香

### 【あらすじ】

お父さんの仕事の事情で〇県に引っ越してきた少女 山田琴音と  
天使 ミカエルがえがく ファンタジー物語です

## 第一話 天使 現れる!!!!

「ねえ神様つていると思う??？」

「ええいるはずないじゃん!!」

そんな空想の世界の人物なんかいるはずない・・・そう思っていた

「たしかにでもいたら楽しそうじゃない琴音?」

そう言つて篠岡萌しのおかもえは私に質問してきた

「いたら楽しいかもね」

もちろん嘘だ・・・いてもいなくても人生なくも変わらないだろう

あと私の名前は山田琴音やまだことねだ

「そつだねえ楽しそう」

キンコーンカンコーン

そう言つていつもとあんまり変わらないファンタジックな話は終わつた

帰り道

たしかに神様がいても別にいいと思うがいたとして地球上の大人数の人間の願いをどうやってきくのだろうか・・・

家

「ただいまー」

ソファにすわり机の上のチラシをよける・・・

「な・・・なにこれ!!!!!!」

私は突然、声をあげた

この家が売られているのだ

「お母さん・・・これ!!!!!!」

「ああ引つ越すから売ったのよ・・・あっ言ってなかったっけ。荷物まとれといてねー」

「ねぇどうして引つ越すの?????」

「お父さんの仕事の事情よー」

う・・・嘘でしょ・・・何かのまちがい・・・そう思った

「ただいま」

お父さんが帰ってきた

「お父さん!どうして引つ越すの?」

「会社が倒産したんだ・・・だから前に住んでた〇県に引っ越すんだよ」

「と・・・倒産」

次の日

今日は金曜日・・・引っ越すのは土曜日と言っていたので今日は皆にお別れを言わなくちゃいけない

キンコーンカンコーン

結局、お別れができないまま引っ越すことになった

〇県

い・・・ここが新しい家・・・前にお父さんが住んでたから、ちょっと汚い・・・

月曜日

今日は新しい学校へ

「転校してきた山田琴音です。よろしくお願いします」

休み時間になると3人の女子が話しかけてきてくれた

「ねえ何処から引っ越してきたの？」

「どうして引越してきたの？」

「今度、遊ばない？いろいろ案内してあげる」

そんなことを言われ、放課後には友達といえるぐらいまで仲良くなつた

次の日

私は一人で学校へ机にはシネなどひどい言葉ばかり

「な・・・誰がこんな事を・・・」

「私がやったの・・・いきなり転校してきて、それだけでもウザいのにすぐ皆になじんで、ウザいんだよねそついうの！！！」

後ろから声がした振り向くとクラスの中心人物の杉本里奈すぎもとりなだった

「なんでこんな事するの？こんなイジメだよ！！！」

「えっ？何て言ったの？聞こえなーいフフ私のお父さんはこの校長よ変に言つとどうなるかわかつてるの」

なんて女だ・・・私はそう思った

休み時間

里奈のせいなのか話してくる人は誰もいなかった

家

こんなときに神様がいたら・・・そう思った

ピロリン メール音だ

なんだろう・・・

宛て先 神

件名 契約

本文 神と契約し悪人をおしおきしたいのなら

下部にサインしてください

— —

神と契約??ホントだったら凄いことだ

私は遊び半分でPCで使ってるサインを書き送信した

そのときだった周りが白く光、気がつくや雲の上!?にいた

「あわああ」

「どうしたのですか?」

そこには1人の少女

「お・・・おちるだろ・・・あれ・・・なんでおりない・・・」

「ここは時空の歪みでちょっと変なんですよ」

・・・意味不明だ説明が変なのかそれともココが変なのか分からない

「あなたは神と契約しました。契約条件として悪にならない事、善を突き通す事、天使である私と行動をとにもすることですが、よろしいですか？」

・・・さっぱり意味がわからんぞ

「ていうことは、お前は天使か？」

「はい！！！！ミカエルともうします」

なんてこった神が本当にいるとは・・・

「分かった・・・契約する」

「はい！！分かりました」

そういうとミカエルはペコリとお辞儀をし、どこかへ走っていった

気がつくと自分の部屋にいた



## 第二話 木下みかん？現る

気がつくと自分の部屋にいた

次の日

里奈ははたして悪人に入るのだろうか・・・

キンコーンカンコーン

今日もいちだんと机に落書きが・・・先生は気づいてるのだが気づかないふりをしている

「きょ・・・今日は転校生がきています」

ドアが開きそこから出てきた人はどっからどうみてもミカエルだった。

あいつはいじめの対象になりやすそうだ

「えっと・・・その・・・木下ミカンです」

男子にはだいぶ評判があり、里奈は手を出しづららしい

みかん《ミカエル》とはなぜか隣の席だった

「あつ・・・琴音さん契約条件のためにここに転校してきました」

ペコリとみかんはお辞儀をし席に座った

「ウザッ」

ぼそりと聞こえた里奈の声・・・みかん・・・ドンマイ

休み時間

「あのお・・・もしかしてあそこにいるかたが悪人の対象ですか？  
」？」

「あっああ私からしたらただけだな・・・」

「たしかに気の強そうな感じによく死ぬとかウザイとか言ってます  
よねえ」

ていうかどうしてこんなことしてるんだ??

「じゃあさっそく神のおしおきを始めますか？」

「待て待て待て待て待て待て待て待て待て説明しろ・・・」

「あっしてませんでしたっけ・・・」

「昨日ちよつとあつただけと今はなしてただけだろ・・・」

「ああ忘れてましたアハハ・・・はつきりいつてやってみないと  
わかんないですよ？」

みかんは笑顔で笑っていった・・・

「じゃあさっそくやりますね・・・神ロード・・・オープン」

みか・・・嫌・・・ミカエルはそういう手と手でパンと音を鳴らす

「あっあれはなんなんだ!??」

私は指を指す・・・そこには黒い物体があった

「あれは悪のかたまりです。あれを消し善だけの世界にする、それが私達、天界の住人の計画です」

### 第三話 神のゲームの始まり!!

「あれは悪のかたまりです。あれを消し善だけの世界にする、それが私達、天界の住人の計画です」

計画・・・ねえ

「じゃあいきますよ・・・女神流第1機・神術の刀!!」

ああこれは非現実的な...

「琴音さん!これで悪のかたまりを斬ってください!!」

「斬るって・・・あれを!!」

「はい!!」

無茶を言うなこの天使は!!

「私に悪を斬れと・・・」

「あのお斬らないと里奈さんの善悪の悪が消えません!!最低限に斬らないと、いじめも終わりません!!」

なるほど・・・って死ぬ可能性もあるんじゃないかあ??

「えっともしかして命がけ??」

「あたりまえじゃないですか!!」

ミカエルは予想以上の笑顔で言った・・・ちよつと不気味に見えた  
しかたない・・・言い訳しても終わらないだろう・・・

私は、悪のかたまりに向かって走る・・・

「おりゃあああああああ！！！」

ぐにゃ

突き刺した感触が気持悪い・・・

「おおさすがです！！！」

さすが・・・って私は特に剣道とか習ってないし普通の人間だぞお

「あつ琴音さん！後ろ！！！」

私は後ろを向くと悪のかたまりがもう目の前にいた

「キヤアアアアーーーー！」

私が悲鳴をあげる

「女神流第3機・神の盾！」

目を開けてみるとなぜか生きている・・・周りには何か迷路  
のような不思議な模様の丸い物体の中に入っていた

「だ・・・大丈夫ですかあ??」

ミカエルだった

「ああ大丈夫だ・・・ってお前も戦えたのか!!」

## 第四話 里奈の真実

「ああ大丈夫だ・・・っってお前も戦えたのか!!」

「はい!!こっに見えても天使ですから!!」

自慢げにミカエルが言う

「それより早くしないと、悪のかたまりが増えちゃいます」

私を囲んでいた物はパズルが崩れていくように消えてった

「おりゃあああああああ」

私は刀で悪のかたまりを斬っていく

「あれ!!あれです!!あれを斬れば終わりです」

「よっしゃーおりゃあああああ」

なんだ今までとは何かちがう

「それは本人が抱えている悩みのかたまりです!!」

悩み・・・里奈にもあるのか・・・

グチャアア

なんかマジでやばい音だ人殺しみたい

ベシヨ

まだまだ

グシャ グシヨ

悩みのかたまりは綺麗に光きえていった

「終わりです。お疲れ様でした」

ミカエルがそういうと、いつの間にか教室に戻っていた

「な・・・あれ??」

私がそういうとミカエルは

「どうしたんですか??」

と疑問な言葉を言うてくる

「どうしたじゃない、なんも変わってないじゃん」

「変わりましたよっ!!」

ミカエルは自信満々に言った

「どーが・・・どーが変わったんだよ!!」

「変わりましたよ!!話しかけて見て下さい」



「えっ、じゃあ、里奈・・・さん??」

「ん?ああ転校生!の琴音??・・・だっけ?このまえはゴメーン魔がさしただけ!!今は楽だな」

あれ?前とだいぶ違っていかかなりちがう!!

「そうなんだ!!」

「あのさ!!今度あそばない私の家さあ結構大きいんだ!!」

「うん!!」

放課後

「琴音??琴音って北方面??あっ一緒だ!!一緒に帰らない??」

「うん!いいよ」

帰り道

「私ね、実際、友達いなかったの・・・だから、私はお父さんがエライからって事を使って友達っぽく見せてたの・・・本当の友達じゃなくて偽友達だった」

里奈はいろいろ事情を話してくれた。

さらに友達になった!し、里奈の家がマジで豪邸でスゴいと思った



## 第五話 里奈の家！！

帰り道

「私ね、実際、友達いなかったの・・・だから、私はお父さんがエライからって事を使って友達っぽく見せてたの・・・本当の友達じゃなくて偽友達だった」

里奈はいろいろ事情を話してくれた。

さらに友達になった！し、里奈の家がマジで豪邸でスゴいと思った

「じゃあ、あとでえー」

遊ぶのは今日！！豪邸だからちょっと緊張してるんだけど、友達の家だしふつうでもいいよね

家

「おかし、おかし・・・あ！これにしょー！！」

遊ぶときはおかしを持っていく！私の「あたりまえ」ってやつだ！！

私はそれから、すぐに家を出て里奈の家に向かった

ピンポン

「えっと山田琴音・・・えっと里奈さんの友達ですけど・・・」

「ああーお友達！！めずらしい！！さっはいつて入って！！」

里奈のお母さんは強引に私を家に入れた

「あの、里奈は?？」

「ああーあの子は二階の部屋だったわ！！里奈ー友達ー」

里奈のお母さんは大きな声で里奈を呼ぶ

「ああーわかった・・・今そがしいからつれてきてー」

里奈のお母さんはため息をつきながらも私を誘導させる

「しょうがない子だなあー誰に似たのかしら!!」

ボソボソと里奈のお母さんは言っている

「ここが里奈の部屋！ノックしないと怒られるから気をつけて！」

里奈のお母さんはそう言い残すと一階に下りていった

トントントン

私は里奈の部屋のドアを二回叩く

「誰?？」

里奈の声だ!!

「琴音だよ!!」

私は質問に答えた

「うん!!入っていいよ!!」

里奈は元気だ、私はたまについていけなくなる

ガチャ

私が入ると里奈は不思議な機械に入っている

「何それ??」

私は不思議な機械を指差しながら言った

「これはね、えつとなんだっけ・・・まあ入ると落ち着く心の底から」

里奈は笑って言う・・・ちよつと不気味に見えた

ピンポーン

あつまかんかな??みかんも遊ぶ人の1人だった

「あつそつだ!!お菓子もってきたの」

私はそう言っじゃ りこを出す

「そういうのいらないよ!!私の家で出すから!!!!」

たしかに里奈の家は豪邸でスゴくお金持ちだけど・・・

私はじゃ　りこをしまう

ガチャ

みかんが里奈の部屋に来た

「ちよつと!!あんた私の部屋はノックして入んなさい!!わかった???」

いきなり怒り出す里奈にみかんはビックリしている

「ゴメンなさい!!でも、なんでノックするの???」

みかんは謝りながらも質問する

「そんなの決まってるじゃない!いきなり入ってきてビックリしない人がドコにいるのよ!!!!」

たしかにそうだけど...

「ふーんそうなんだ!」

みかんは納得している

「里奈の使ってるマシンは悪が取り付いている」

みかんは里奈が気づかないように私のほうに来て里奈に聞こえない声で言った

その言葉にビックリしながらも表情には出さないようにした

「ふぁー落ち着いた!!」

もしかしたら機械から悪が乗り移ったらどうしよう・・・

「どうしたの？琴音??変な顔して!!」

里奈が私の顔を見て心配そうな目で見る

またも、みかんがコツチに来て言った

「里奈にも悪がついた!悪を斬んなきゃ!!」

## 第六話 二回目のおしおき!!

「里奈にも悪がついた！悪を斬んなきゃ!!」

背中がゾクツとした

「神ロード・・・オープン!!」

「またも知らないところ・・・ここはドコなのだろうか・・・」

「女神流第1機、神術の刀」

私の視界には人間の形をした不思議な物体から出てくる悪のかたまりとさっきの不思議な機械の形に似ている物体から出る悪のかたまり

「おりゃあああー」

私は悪のかたまりにむかって刀を向け走る

「誰も信じられない・・・信じてどうなるの・・・裏切られるだけじゃん!!」

人間の形をした物体からは里奈の声が聞こえる

「琴音さん!!この声は里奈さんの本音です!!・・・きつとこれはレベル3です」

「レベルってあんのかよおおおおおお」



私は大きな声で言いながらも物体を斬っていく

「里奈さんを説得しないとおわりません!！」

しょうがない!！」

「里奈!！」信じられないって信じようとしてないのは里奈のほうじゃないの」

「ちがうちがうちがう!私は前に裏切られた!！」信じてた人に……」

「じゃあなんで裏切られた辛さを分かりながらも信じないの!！」

「そんなのできない……私には無理……こんな出来損ないの私になんか」

「なんで出来損ないっていうの??わかんないよお」

「出来損ないだよ!勉強とかできるだけでコミュニケーションもきちんとできないし……」

「そんなことない!！」まだ未来があるじゃん!なんで未来があるのにそんなことをいうの??」

「このまま生きるとまた信じた人に裏切られる……そんなんだつたら未来なんかいらない!！」私は、私は、そんなだつたら死んだほうがマジだあああああ」

里奈が叫ぶと悪のかたまりが固くなる

「そつだ!!もうイヤなら悪で満たしてあげよう!友達なんか信じる人なんかいらぬ!」

機械の形をした物体が言う

「だから唯一いきていられる方法を私はとつた!それが悪いか!」

「ダメだよ!悪に全部乗っ取られてもいいの??」

「いいよ!どうせ私なんか生きていなくても生きてても世界は何も変わらない!!」

「そんな事ない!!じゃあ今日は誰の為に里奈の家で遊んだの??里奈が遊びたいって言ったんでしょ!!」

「そんな事言つて実際私のこと嫌ってるんでしょ!!本音言いなさいよ...もうかまわなくてもいいよ」

「そんな程度のもりで友達になろうとなんか思つてない!!」

空間に次々に響く皆の声、私は里奈を救いたい!!

## 第七話 本当の友達！

「そんな程度のもりで友達になろうとなんか思っただけじゃない！」

空間に次々に響く皆の声、私は里奈を救いたい！！

友達だから！

「嘘だ！人間は誰もが嘘をつく！本当はウザいとか思ってる！」

「なんで私の事、信じてくれないの？信じないと本当の友達なんかできないよ！」

「そんな心が読めないし、私みたいな間違いだらけのコミュニケーションじゃ無理に決まってるじゃん！」

「それでも！たとえ間違いだらけでも、私は里奈と友達・・・本当の友達だと思ってる！」

「本当の友達？」

「本当の友達！どんなことも協力し合って、どんなことも一緒だよ！」

「じゃあ、信じあうって事？私は、琴音と本当の友達？」

「そつだよ！だから、信じようよ！皆を自分を！」

「うん・・・」

その言葉を最後に里奈の心の物体は光となり、消えていった。

悪のかたまりも消えていく。

「里奈さん！スゴいですよぉ！」

みかんはそう言ってこちらに走ってくる。

「よかった。救えた」

急に周りが光る、目を開けると里奈の部屋にいた。

不思議な機械はどこにもなかった。

「里奈！今日は良いことあった？」

「なんか、前より・・・いや人生が楽しくなった、心が楽になった・・・でも、どうしてだろう？」

「本当の友達と一緒にいるからじゃない？」

「そうかもね！」

里奈と私とみかんは楽しく遊んだ。

豪邸と言っても普通の心を持つてるのは変わらない。

私が今日、学んだことだ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9558z/>

---

神のおしおきゲーム

2012年1月6日22時54分発行